

## &lt; 運営推進会議における評価\_様式例 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	株式会社 アース	事業所名	看多機サボテン
所在地	(〒270-2203) 千葉県松戸市六高台 3-77		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・「ケアプラン」「訪問看護・リハビリ」「訪問介護」「通い」「泊り」のサービスを一体化することにより、ひとり一人に合わせた柔軟な支援をご自宅中心に行います。
- ・終末期、医療ケアのある方も主治医、関係機関との連携を密に行い、ご本人の意思を尊重し安心して過ごせるように寄り添った支援をいたします。
- ・利用者様が安心して生活できる在宅サービスを24時間365日対応で提供いたします。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021 年 5 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	(15) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	--------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 ____ 年 ____ 月 ____ 日	出席人数 (合計)	( _____ ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( _____ 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( _____ 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( _____ 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( _____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( _____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( _____ 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( _____ 人) <input type="checkbox"/> その他 ( _____ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>①理念の明確化 ②各個人の年間計画立案。サポート体制の確立。 ③内研修への積極的な参加 ④常勤介護職員の喀痰吸引等特定行為受講。 ⑤就業規則に沿って安全、安心できる職場環境の整備。 ⑥カンファレンスで情報共有 ⑦マニュアルの整備 ⑧手順書の作成、更新 ⑨環境整備 ⑩事故報告書の共有</p>	<p>①パンフレットなどを用い、会社・事業所の理念について説明を行った。 ②各スタッフのスキルに合わせた年間目標、計画を立案し、実施。定期的に面談し達成度の確認を行い、必要に応じて指導、助言した。 ③コロナ禍において集団での研修はできなかったが、ビデオ研修や ZOOM による研修を実施した。 ④介護職員のスキルアップの為に積極的な研修受講を促しケアの質の向上を図った。 ⑤残業削減や休憩時間確保の為に業務の見直しを行った。 ⑥ミーティング、カンファレンスの時間を確保し、情報の共有を徹底した。 ⑦必要なマニュアル項目を挙げ、作成に取り組んだ。 ⑧業務やケアの手順書の作成を行い、統一したケアが行えるようにした。 ⑨安全、安楽に、支援がスムーズに行えるように環境整備を行った。 ⑩ヒヤリハット、事故報告は事業所で共有し、再発防止に努めた。</p>	<p>① 説明しても明確に理解できたかの確認ができていないこともあり、事業所全スタッフへ理念の説明を継続していく。 ②年度初めに各個人の目標、計画を立てたが、定期的な面談ができず、フォローが中途半端になってしまった。スキルアップのために達成度の確認、指導を徹底していく。 ③毎月、会社全体の研修会が開催され、コロナ禍ということもありビデオ研修が多かった。スタッフには毎回研修後感想文の提出をしてもらっている。自己研鑽の為に継続して参加を促していきたい。 ④常勤介護職員は全員喀痰吸引等の研修（3号研修）を終了することができた。医療依存度の高い方を積極的に受け入れられるよう技術向上のため指導を継続していく。 ⑤残業削減の為に記録物の見直しを行い業務の効率化を図った。休憩時間の確保が難しい日もあったがお互いに声をかけあい時間の調整を行った。</p>

		<p>⑥毎日ミーティングの時間を確保することで情報の共有を徹底して行うことができた。</p> <p>⑦⑧まだ作成途中であり、早急に行う必要がある。</p> <p>⑨コロナ禍にあり、定期的な換気・消毒・事業所内抗菌コート・空気清浄機の導入。また物品などの配置変換などを行い、業務の効率化を図れた。</p> <p>⑩インシデント・アクシデント報告書は必ずスタッフ間で共有し、事業所内で対策を検討。スタッフの危機管理の意識を高めた。</p> <p>→コロナ禍にあつて諸条件が制約される中、改善計画への真摯な取り組みが読み取れました。</p> <p>→常に業務改善の視点を持つことが大切である</p> <p>→③コロナ禍でも法人全体で工夫され研修を実施し質の改善に取り組まれていた様子が伺えた</p> <p>→③研修後の感想文を毎回作成している点は徹底されていると感じる</p> <p>→④看多機として頼りになると感じる</p> <p>→④今後の活躍が期待される</p> <p>→⑥情報共有は重要で徹底している点は評価できる</p>
--	--	--

				→⑨コロナ禍で通常以上に換気、消毒等よく配慮されている
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	①情報共有し、専門性を持った視点での計画書の作成 ②カンファレンスにより情報の共有。 ③利用者のニーズに合わせたプランを立て臨機応変に対応していく。 ④医療ニーズの高い利用者や看取りの相談も積極的に受け入れられるような支援体制を構築する。	①介護・看護それぞれの視点でアセスメントし、利用者の状態、希望に沿った計画を立てた。 ②必要時、その都度カンファレンスを実施し情報の共有を行った。 ③利用者の状態変化時や要望があった場合は、ケアマネを中心に計画の見直しを行った。 ④喀痰吸引など医療行為のある方の支援体制を整え、受け入れは可能な限り受けた。	①②③利用者、家族の希望に沿った計画を立て支援することで、利用者も意欲を持って目標に向かうことができた。 また、問題が発生した時や状態変化時は、その都度カンファレンスを行い、計画の見直しをするなど、臨機応変に対応する事ができた。 今後もその時々にあった計画を立て直し、支援できる体制を継続していきたい。 ④経管栄養・吸引の医療ケアの支援体制は整えられた。最重度の人工呼吸器の方の支援もできるように教育体制を確立していきたい。 →①②③臨機応変な対応、④経管栄養・吸引の医療ケアの支援体制が整えられているのは地域の事業所として心強い
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	①他の事業所との合同研修の検討。 ②病院や訪問診療医とのカンファレンスへの参加	①コロナ禍において集団での研修はできていない。 ②退院時、合同カンファレンスに参加し、在宅での生活が円滑にできるように情報の共有、医師から情報収集を行った。	①ZOOMでの研修を組み入れる等、時間の確保も確立していきたい。 ②退院前、合同カンファレンスに参加し、情報収集、情報共有することで、在宅に戻ってからの生活支援がスムーズに行えた。また状態変化により、支援内容の変更すべき点も見え、事前に利用者、家族と相談し、支援内容を決定することができた。

				→②コロナ禍において合同カンファレンスに参加し情報共有したことで在宅生活支援がスムーズに行われた事は素晴らしい
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	①地域で開催されるイベントへ参加 ②地域とつながりを築けるように、施設の解放、施設でのイベントの開催。 ③介護・看護相談の実施	①地域でのイベント情報を収集し、積極的に参加。地域の方とのコミュニケーションを図り信頼関係を築く。 ②地域の方がいつでも気軽に来れるような雰囲気づくり。 施設でのイベント情報を掲示板で知らせる。 ③上記イベント時など、気軽に相談できるような雰囲気づくり、声掛けを行う。 地域包括や介護相談の連絡があったら、積極的に関りをもち支援相談にのる。	①コロナ禍において集団のイベントへの参加ができなかった。 ②コロナ禍においてイベント中止となった。 ③支援相談があった場合は、積極的に関りを持ち、中には利用開始となったケースもあった。 今後も地域の方が住み慣れた家で生活できるよう、協力、支援していきたい。 →③地域の事業所として期待している
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	①地域の医療ニーズの高い方 終末期の方、独居の方などの相談、支援を受け入れられるような体制を整備する。 ②地域との交流(町会行事への参加) ③近隣の方々とのコミュニケーションを良好に保つ。	①介護職員のあらゆる医療ケアの必要な方の受け入れができるよう体制を整える。 ②地域のイベント情報を得る。積極的に参加する。 ③明るくあいさつをする。 施設内のイベントへ招待し開かれた関係性を構築する。	①最重度(人工呼吸器)である利用者の管理体制は、まだ構築されていない。 知識・技術ともに教育体制を整え受け入れられるようにしていきたい。 ②コロナ禍にあり、積極的参加ができていない ③コロナ禍にあり、施設内への立ち入り禁止。 イベントもできていない。	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>①事業所の理念、サービス内容についての理解度に個人差があるため、再確認していく必要があり、サービスの向上に繋げていく。</p> <p>②情報共有を徹底し、統一したケアの提供、業務の効率化を図って行く必要がある。</p> <p>② スタッフの危機管理能力を高め、災害時などの緊急時に迅速な対応ができるようマニュアル作成、訓練を実施していく必要がある。</p> <p>→緊急時の体制構築マニュアル、危機管理意識の共有などの実現に期待します。</p> <p>→スタッフ間の情報共有などがきちっと位置づけられ、時間の確保など具体化が計画されていること大切と思います。</p> <p>→質の向上、マニュアル作成など運営面での改善に積極的に取り組んでいる様子が伺える</p>	<p>①事業理念を全スタッフが共有し、行動の明確化、価値観の統一を行うことで、より良いサービスを提供する。</p> <p>②介護・看護職ともに定期的な勉強会を開催し、専門職としての知識・技術の向上を目指す。</p> <p>③情報共有のための時間確保、良好なコミュニケーション環境をつくり、業務の効率化を図る。</p> <p>④緊急時の体制構築のためのマニュアル作成をする。</p> <p>⑤全スタッフが危機管理をもって、災害時など迅速な対応ができるよう訓練を実施する。</p>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>①専門職としての知識、技術に個人差があり、状況変化に対しアセスメント力に欠ける部分がある。状況変化時は、都度カンファレンスにて情報共有を行い、より良いサービス提供を行っていく。</p> <p>①看護職、ケアマネジャーを中心に多機関との連携を密に行い在宅生活への支援体制は整えられているが、介護職の関りが、まだ弱い部分もある為、情報共有を徹底し支援体制を整えてい</p>	<p>①介護・看護職それぞれの視点でのアセスメントが行え、意見交換、情報共有することで利用者の状況変化にも柔軟な対応ができる。</p> <p>②ミーティング・カンファレンスの継続を行い、情報共有することで連携したケアが提供できる。</p> <p>③利用者・家族がサービス内容がしっかりと理解でき安心して利用できるようにわかりやすく説明を行う。</p> <p>①他機関との連携・情報共有を密に行い、また事業所内においても多職種間での情報共有を徹底し、在宅生活が円滑に行えるように支援体制を整える。</p>

		く。	②緊急時の対応について、主治医や関係機関と情報共有し急変時に即対応できるよう体制を整える。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	①地域の方々や地域の多機関へ事業所の役割など情報発信を行い、事業所の特色についての理解を広めていく。 ②医療依存度の高い方も受け入れられるように研修を継続的に実施し、支援体制を整えていく。	①運営推進会議での意見、助言などをスタッフ間で共有し、サービスへ反映させる。 ②3 蜜を避け、地域での行事などへ参加し、事業所の情報発信を行う。 ③医療依存度の高い利用者も積極的に受け入れられる体制づくりを継続して行う。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		①利用者、家族の意思を尊重した目標設定は出来ており、必要時、見直していく。 ②サービスを受けながら安心して在宅生活が継続していけるよう介護・看護職の情報共有、連携を徹底していく。	①目標達成に向けて必要時、計画の見直しを行い利用者、家族の希望を反映させたサービスの提供を継続していく。 ②介護・看護職の情報共有、連携を密にとり、利用者、家族が安心してサービスを受けられるよう質の向上に向けての体制づくりを構築していく。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ でき て い る	あまりで きてい ない	全く でき て い ない		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活	1	4	10		・低い評価をつけた要因を突き止められるとよい ・宿泊数が増え運営も大変だろうと思う。急なニーズにも	✓ ①~⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①~⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそでき
		[具体的な状況・取組内容] ・医療処置のある方は、状況により看護					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い			
	機能の維持回復、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている					<p>師が訪問し処置を継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的、また突発的な泊りの依頼にも対応し、レスパイトケアを実施している。</li> <li>・看取り希望も積極的に受け入れを行っている。</li> <li>・医療的ケア（吸引・経管栄養）がある方の受け入れも行い、泊りでは研修を受けたワーカーが24時間ケアを実践出来ている。看護師との連絡体制も整っている</li> <li>・個別的なところで、多様なニーズに対応出来ていない部分もある。</li> </ul>	<p>応える体制は利用者の頼りになっていると思われる</p>	<p>ている」もしくは「あまりできていない」</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		9	5	1	<p>・低い評価をつけた要因を突き止められるとよい</p>	<p>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>	
<b>(2) 人材の育成</b>								
① 専門技術の向上のための取組								
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育		6	8	1	<p>・低い評価をつけた要因を突き止められるとよい</p>	<p>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</p>	



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	成計画などを作成している	<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・スタッフの年間個人目標、行動計画を立案し、定期的な面談を実施。 ・業務中での技術指導、実践を行い、個々のスキルアップを目指している。 ・介護・看護スタッフがそれぞれの専門性が発揮できるようにお互いに声を掛け合いながら実践できる環境づくり。					✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	3	5	6	1	・研修環境の整備が望まれる	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情	2	11	2		・引き続き継続を ・殆どのスタッフが肯定的な	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	報を共有する機会が、確保されている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・毎朝、ミーティングを行い、情報共有の時間の確保がされている。 ・毎週木曜日、ミーティングの時間を確保し、ケースカンファレンスなど実施できている。 ・申し送りノートを作成し、細かいことも共有事項として記載し、情報漏れがないように徹底している。				自己評価であり素晴らしい	✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		3	10	2	・利用者や家族の思いは大切にしてほしい ・実開催が出来ない現状では意見交換は難しいと感じる	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	2	6	7		・引き続き継続を	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談しやすい環境づくり。声掛け。</li> <li>・個々の希望に添った勤務調整の実施。</li> <li>・人員欠如時、スタッフの協力体制ができています。安心して休暇がとれる。</li> </ul>					考えられます
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	3	10	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き継続を</li> <li>・殆どのスタッフが肯定的な自己評価であり素晴らしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者		7	7	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低い評価をつけた要因を突</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い			
	等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	<b>【具体的な状況・取組内容】</b> ・ヒヤリハット、事故報告書はスタッフ全員で共有し、再発防止に努めている。 ・車の運転に関する研修も法人内の研修で実施している。 ・危機管理能力を高めるため、研修およびマニュアル等の整備が必要である。				き止められるとよい	の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます	
② 災害等の緊急時の体制の構築								
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	1	4	6	4	<b>【具体的な状況・取組内容】</b> ・災害時のマニュアルの整備が不十分。早急に行う必要があり、想定外の緊急時にも対応できるように訓練していきたい。 ・事業所内において吸引等に必要な電源の確保（バッテリー）の備えはできているが、各利用者宅の整備ができていない。 ・職員間は lineworks での確認体制ができている。	・低い評価をつけた要因を突き止められるとよい ・LINEWORKS の導入で業務効率の改善を図っていると評価できる	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
<b>II サービス提供等の評価</b>								
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>								
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>								
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施								

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		6	6	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>低い評価をつけた要因を突き止められるとよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の生活環境、それを取り巻く背景を十分アセスメントし、利用計画を立案している。</li> <li>介護者の状況に合わせ、介護指導や訪問を行うなどフォローしている。</li> <li>利用者、家族に突発的な問題が発生した時は、臨機応変に対応している。</li> <li>利用者の生活環境を把握できていないスタッフもいる（非常勤）</li> </ul>							
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	1	7	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>低い評価をつけた要因を突き止められるとよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護職・看護職それぞれが気づいた点は、その都度共有し利用者にとって最善のケアを選択、提供するようにしている。</li> <li>医療的な部分で、介護職の理解度が異なる時があり、ミーティングで意見交換を行い共有できるようにしている。</li> <li>それぞれの視点でのアセスメント、共有、実践したあとのフィードバックもできており、必要に応じて再度アセスメントし修正している。</li> <li>それぞれの視点でのアセスメント力を</li> </ul>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		高める必要性もある。					
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	1	9	4	1	・引き続き継続を	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・利用者、家族の意向が反映された計画を立案している。 ・利用者、家族の意向が違うこともあり目標設定が困難な状況の時もある。 ・送迎時など利用者、家族との会話を通して、その時々考えや思いなど情報収集し、計画に反映させるようにしている。 ・目標達成に向けて、利用者、家族の思いなどスタッフ間で共有している。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		11	4		・“自立支援”を目指していると見受けられる	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・看護職によるリハビリの実施など残存機能の維持回復に向けた計画を作成している ・利用者自身ができることは見守りで行うようにしている。 ・機能低下時は、迅速に計画の見直しを行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		10	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き継続を</li> <li>殆どのスタッフが予後予測、リスク管理を行えていると自己評価できている点は素晴らしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</li> </ul>
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	2	7	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き継続を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・状態変化時は、主治医へ報告し指示を仰ぐ。また介護、看護職間で情報の共有を行い、再度アセスメントし計画へ反映させている。</li> </ul>					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	2	8	5		・引き続き継続を	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</li> </ul>
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	2	8	4		・引き続き継続を	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</li> </ul>



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>の都度、ミーティング、カンファレンスにて情報の共有を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフによっては、状況変化後の対応の確認が不足していることもあり、スタッフ間での確認、声かけを徹底する必要がある。</li> </ul>					
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	2	10	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</li> </ul>
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	3	10	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>情報の共有を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースカンファレンスによる意見交換、統一したケアの確認を行い連携しながら実践できている。</li> <li>・介護、看護職がお互いにコミュニケーションを密にとり連携したケアができている。</li> </ul>					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	3	10	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		9	6			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・利用時、分かりやすい言葉で説明は行っている。 ・利用者によっては、理解していただくまで何度も繰り返し説明している。 ・利用時、不明な点があった場合はその都度、説明してご理解いただくようにしている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		10	5			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・計画作成後は、分かりやすい言葉でゆっくりと説明し、理解を得ている。 ・利用者の生活背景を視野に入れ、また今までの生活環境を考慮しつつ、注意すべき点など、分かりやすく説明している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		8	6	1		✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・家族の状況によっては、訪問を行いケアの方法について説明を行っている。 ・利用者・家族が処置に対し不安がある場合は、繰り返し説明している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>説明は行っているが、利用者・家族がそれまでに行ってきたやり方があり、方法の選択肢の1つであるという説明のみになっている場合もある。</li> </ul>					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	1	10	3	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用開始時に、利用者・家族の希望、意思の確認を必ず行い、サービス計画に反映させている。</li> <li>・利用者・家族とのコミュニケーションを通し、その時々々の想いや希望を確認しサービスへ反映させている。</li> <li>・突発的な希望にも可能な限り柔軟に対応できている。</li> </ul>					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		8	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病状の変化や生活環境により予測される状況を見極め、利用者へ説明し共有している。</li> <li>・利用者・家族の希望に添えるように、納得がいくまで相談しながら方向性を決めている。</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		8	4	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</li> </ul>
<p><b>2. 多機関・多職種との連携</b></p> <p><b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b></p> <p>① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行</p>							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		10	3	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退院前カンファレンスにケアマネ、看護師が参加し、医師など関係者からの情報提供、共有を行っている。</li> <li>・ 在宅療養に向けて、支援体制がしっかりと出来るようにケアマネを中心に関係者間での連携を取っている。</li> <li>・ 医療ケアが必要な場合、家族の手技確認等を行い、必要時 退院前に指導しても</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		らうよう依頼している。					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	1	7	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・緊急時の対応や利用者・家族の意向は確認できているが、主治医との共有が出来ていない利用者もいるため、早急に相談、共有する必要がある。					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		8	4	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・看護師が24時間オンコール対応をしており、緊急時対応できる体制は整っている。 ・夜勤者へも緊急時の対応ができるよう指導を行っている。					
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利		7	5	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者のために必要となる、介</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	<p>ユーザーのために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている</p>	<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において感染予防のため、会議は実施できていない。</li> <li>・定期的に書面にて報告、情報提供し、意見をいただいている。</li> </ul>					<p>護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、「多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</li> <li>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</li> </ul>
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	<p>○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている</p>	1	2	7	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書面にてご意見頂いた内容など議事録にまとめ発信しているが、もっと迅速に行う必要がある。</li> <li>・記録は事務所にファイリングされているがスタッフの確認が不足している。スタッフへの発信を積極的に実施していく。</li> </ul>					
33	<p>○ サービスの概要や地域にお</p>		3	7	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	いて果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	<b>【具体的な状況・取組内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページで情報発信している。</li> <li>・病院の相談支援員へパンフレットを渡し事業所の役割について情報発信している。</li> <li>・コロナ禍において集団での啓発活動は困難であるが、チラシ等での事業所の概要、役割などについて積極的に発信していく必要がある。</li> </ul>					評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している				15	<b>【具体的な状況・取組内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、事業所の登録者以外の訪問看護は実施していない。</li> <li>・人員体制が整い、訪問看護の体制が構築できれば受け入れていきたい。</li> </ul>	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、【具体的な状況・取組内容】欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	9	6				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	6	4	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
37	○ 「看取り支援」を必要とする	1	11	1	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い			
	要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・受け入れ態勢は整っており、依頼があれば積極的に受け入れを行っている。 ・最期は、利用者、家族が安心して過ごせるように、スタッフ一丸となり寄り添った支援を心がけ実践している。					充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します	
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>								
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解								
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		3	5	7		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・職員全体が明確に理解できていない。 ・研修などで、地域包括ケアシステムについて取り上げ、理解を深めていけるよう努めていきたい。	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開								
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	4	8	2	1		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・同一建物内からの受け入れは2名のみ(1名は5月末で終了)。 ・圏域外からの受け入れは事情を考慮し	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支え

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		受け入れており、送迎も柔軟に対応している。					<p>る核として機能していくことが期待されます</p> <p>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</p>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域 の関係者に対し、必要に応じ て課題提起や改善策の提案 等が行われている		4	4	7		<p>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	1	5	6	3		<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		訪問を増やし繰り返し指導している。 ・個人情報もあり、本人、家族が希望しない 中でのインフォーマルな支援体制作りは難 しい。					者全員の介護力を最大限に高める ことにより、在宅での療養生活を 支えていくための環境を整えてい くなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている (3) 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている (5) 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている (5) 4. 利用者の1/3には満たない(2) <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎月、看護計画を評価し、必要時修正している。 ・利用者、家族の希望を計画・目標に反映させている。 ・目標達成に向けてのケア、支援が行えている。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られ	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている (3) 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている (5) 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている (6) 4. 利用者の1/3には満たない (1)		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	ている	<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・<u>状態変化時、緊急訪問することで、利用者、家族の安心は得られている。</u></p> <p>・<u>在宅でも継続してケアができるよう気を付けることなどを助言したり、心配ごとや分からないことはいつでも電話連絡が可能な体制にしていることが安心材料となっている。</u></p>		ついて、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている (3)</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている (4)</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている (3)</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない (3)</li> <li>5. 看取りの希望者はいない (2)</li> </ol> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・在宅で不安を感じているときは、看多機宿泊による看取りの提案をし、実施している。</p> <p>・何かあった時の緊急訪問体制が安心感を得られている。</p> <p>・最期をどのようにして迎えるのか一緒に寄り添って考え、支援している。</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>